

4月は入学式や入社式など、新しい門出の季節です。また、クラス替えや部署異動など、身の回りの人間関係が変わる時期でもあります。新たな出会いに胸を弾ませる人がいる反面、うまくコミュニケーションを図れるかどうか、不安を感じる人も多いのではないのでしょうか。

先日、関西に住んでいる娘の家族とビデオ通話をしていたとき、私たち夫婦には聞き慣れない単語が出てきました。それもどうやら短縮形の言葉で、一瞬ついていけない経験をしました。それに気付いた孫はすぐさま、それがお気に入りのゲームキャラクターの名前であることを説明してくれました。孫の気配りにうれしく思う一方で、世代間のギャップといいますが、コミュニケーションの難しさを感じたところでした。

人間が言葉や文字、ジェスチャー

や表情などを使って意見や感情、思考を伝達し合うコミュニケーションは、互いが意見を一方的に言うだけの関係性ではなく、互いに意思疎通を図ることが求められます。SNSが普及している現代社会では、世界中の多くの人たちとつながる機会があります。しかし、一方的に意見を発信する機会も増えており、その結果、実際にはコミュニケーションが取れていないのに、取れているかのように錯覚してしまうことがあるように感じます。

コミュニケーションは人と人との双方向の関係性です。会話の中で、自分とは異なる多様な考え方を尊重し、互いに気遣いを意識すること、より良い意思疎通が可能になるように思います。

例えば、相手の意見を否定せずに傾聴し、表情や声のトーンなどを気に掛けることで相手の気持ちを酌み取れることもあります。また、自分の考えを理解してもらうためには、落ち着いて話し、相手が理解しやすい言葉を選んでシンブルに伝えるといった配慮も必要のように感じます。

お互いの理解が深まると、気持ち満たされ、前向きになれるといった心の充足感が得られたり、物事がスムーズに進み、新たなアイデアが生まれたりすることもあります。会話を通じて人生の満足度を高められる。コミュニケーションにはそんな力があるように思います。

新たな人々との交流が始まる季節を迎えます。人間関係を築く第一歩として、相手との心の通じ合いを意識したコミュニケーションを心掛けてはいかがでしょうか。

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

コミュニケーションで 大切なこと

帯広市長 米沢 則寿



今月は ウサギ

ウサギのチャームポイントの一つは「肉垂（にくすい）」でしょう。顎の下にある皮膚がたるんだ部分のことです。これは個体差がありますが主にオスのメスに見られるものです。エネルギーを貯めたり、出産時にはこの部分の毛を抜いて営巣したり。当園のメスウサギにも立派な肉垂があります。「すごい二重顎だね」なんて言われることもあります。太っているわけではないですよ！



ウサギの魅力はなんといっても見た目のかわいらしさ。モフモフで丸っこいフォルムがたまりません！

ウサギ担当
佐藤職員



園長賞



いまかわたまきさん提供



ささきけんたさん提供



おびひろ動物園の動物たちの写真を大募集！

動物園長と広報担当で厳選し、魅力的な写真を当コーナーで紹介しします。次回（7月号）の動物は「キリン」です！

応募方法「#広報おびひろZOOレター」を付けて、Instagramに投稿するか、WEBフォームから応募してください。photo@city.obihoro.hokkaido.jpに画像（5MB以内）を添付して送付することもできます。

※提供された写真は、次回のZOOレターで紹介したり、市の広報物などに使用する場合がありま。その場合、個別にお知らせはしません。写真に関する問い合わせは、広報広聴課へ。



広報広聴課職員が行く！

オビヒロカメラレポ

OBIHIRO
CAMERA
REPORT

2月上旬から3月上旬にかけて開催した「ひな人形展」。明治から平成までのひな人形11組と絵紙を展示しました。

人形には寄贈者のエピソードが添えられており「大正14年から買いそろえ始め、終戦後の食糧難の時に農家の方が人形を欲しがったが、両親は譲らずに残してくれた」「昭和27年3月4日の十勝沖地震の時、人形が無事心配だった」など、家族が子の健やかな成長を願い、人形と共に大切に過ごしてきた歴史を垣間見ることができました。（2月14日、百年記念館）



ひな人形展

絵紙：浮世絵、特に多色刷り木版画である錦絵を指す新潟県小千谷市の言葉。ひな祭りに絵紙を飾る風習がある。



明治時代のひな人形

陶芸講座の受講生たちによる修了作品展を2月19日から26日にかけて百年記念館で開催し、一般の来館者のほか、受講生やその家族、友人などでにぎわいました。

会場には、およそ5カ月間にわたる講座で培った技術と創造力を駆使して製作された、700点近くの茶碗や皿、ユニークなオブジェなど多彩な作品が並び、人々の目を楽しませていました。

また、訪れた人からは、「どの作品も完成度が高く、1点1点に受講生の思い入れやこだわりが感じられる。機会があれば、私も受講してみたい」との声が寄せられました。（2月23日、百年記念館）

後期陶芸講座修了作品展

